

令和5年度 第2回
寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定等外部委員会（書面会議） 結果

- ・資料発送日
令和6年1月29日（月）
- ・会議開催予定日
令和6年2月5日（月） ※雪による悪天候のため中止（書面会議へ変更）
- ・書面会議開催通知
令和6年2月6日（火）
- ・意見等提出期限
令和6年2月19日（月）

議題

（1）寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略（第2期）令和6年度実施事業について

【委員からの意見等】

●各事業について

○エコノミックガーデニング推進事業

町民は、生活必需品等は近くのスーパーやコンビニ、その他の買い物は他市に行っている感があります。地域通貨の導入を図って、何の効果があるのでしょうか。町内の商業振興を進めるためには、海老名市や平塚市の様に、大手の商業施設等の誘致等を取り入れるとか方策はあると思います。

○観光推進事業

昨年11月に寒川神社がTVで取り上げられ、翌日から参拝客が押し寄せ大変だったと聞きました。メディアの力は凄く、また昨今のSNSやXの影響力を見ますと、寒川神社周辺の情景の発信や、商業施設が充実されていくと関心を持つ人が増え人口増加につながると考えます。

○タウンセールス推進事業

ブランドスローガン「高座」のころ。に、愛川町のように子育てしやすい町、やさしい町等キャッチフレーズがあるとわかりやすく、関心を持たれるのではないかと思います。

○結婚・出産・子育て環境整備事業

学童クラブ待機児童0というのは現実ではないという点です。全保育園こども園最低3学年分の人数が確保されているわけではないので、パートの仕事をされている方は初めから入所できないことがわかっている方がいる事。中には長くお願いしたくても2年生で退所しなければならない子どももいます。共働きが多くなっている現在、更なる受け入れ態勢を考えなければと考えます。

産科のない町です。産後ケアの増額は良いことですが、安心感があるという点で産科ができることをお願いしたいと思っております。

○魅力的な教育環境推進事業

町として英語教育に力を入れているように伺えます。力を入れているのであれば、せっかく各小学校にFLTやTTを配置しているので近隣の市のように小学校1年生から取り組んでいただきたいと思います。今年度の共通テストや県立高校の英語のテストを見てみますと例年より難しくなっています。小学校の頃よりしっかりとした学習が必要かと思えます。英語教育が凄いとすれば、若い世代の関心が集まります。

小学生全国学力調査テストにおいて神奈川は中間、その中で寒川はかなり成績が低く「自分で考える力・文章を読み取る力」において点数が低いです。学力の高い地域のほうが好まれますので、人材を確保し、指導の体制を整えてほしいと思えます。

ICTにおいてはリスクもありますが、この冬のインフルエンザ等の流行で学級閉鎖学年閉鎖になるなど授業の遅れが心配になる中活用でき良いのですが、教員による格差が出ており、さらなる研鑽を積んでいただき、教育の一律化を図っていただきたい。

○デジタル推進事業

キャッシュレス決裁の導入、茅ヶ崎市が始めました。

●全体、その他について

策定の背景については、一定理解できますが、本当に40年先について見通せるのか疑問に思えます。この人口ビジョンについて、どのような調査で結果がでたのか、近年の少子高齢化については、日本全体が同じ状況になっている中で、人口減少、労働力の減少、税収減、行政サービスの低下に陥ることは、寒川町をはじめどこの市町村も皆同じ状況で同じ施策だと考えます。平成28年3月に「寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を打ち立て、40年後に向け、安定した目標値を定め、取り組むことは良いことと思えますが、40年後の社会情勢は、どのようになっているか見当がつかいません。目指すべき将来の方向の3点を見ますと、「①雇用機会の確保と産業の創出」については、人口減少社会の中で、はたして雇用機会や産業が増加・発

展するとは思えません。「②若い世代の子育て環境の整備」については、子育て環境の整備にしても、現状では良いかも知れませんが、現状の小中学校施設と同様、思い切った施策が必要ではないかと考えます。「③まちの魅力と認知度の向上」については、現状で、まちの魅力や認知度を上げていっても、なにも変わらないと思います。そこで、提案ですが、40年後の現状（人口 35,317 人）を見据え、コンパクトで顔の見えるまちづくり戦略に方針転化しても良いのではないかと思います。将来、人口を3万5千と定め、コンパクトなまちづくりやIT等を活用した行財政運営を目指し、また、産業分野においても、極力、競争力をつけた企業誘致、現状企業等が移転しないような定住促進策を図ることが、重要ではないでしょうか。

少子高齢化については、先進国や、日本の課題であり、対策は皆無。人口減少については、何が課題なのか。町内の独身者数や結婚しない人の実態。労働力の減少については、農業・工業・商業・サービス業、高齢化により労働力不足等。税収の減については、企業・サービス業等の移動。行政サービスについては、委託に頼らない自前の行政サービス（専門職の充実）。ITを活用した職員の減。など本質をもっと探るべきではないか。

寒川町と企業間連携による新たなサービス・商品の提供を目指したプロジェクトチームを作成し、寒川町魅力を外部に発信していくため、寒川町に所在する各企業と町が連携した地域活性化事業を展開するとよい。

JA さがみ大型直売所「わいわい市」周辺にはさむかわ中央公園、寒川神社等県内外の人が訪れる施設がある。この地域を寒川町魅力発見拠点とし、「花のまち」寒川基軸とした地元農業をPR。四季に合わせたイベントを展開し、企業間連携により開発した商品の販売も行うとよい。

町内遊休農地を町とJAが連携して管理をし、農業従事者（定年退職後の就農者やUターン就農者含む）の育成を行う。販路を直売所とすることで、マーケティングも学び、様々な発想から生まれるイベント開催にもつなげるとよい。

< 資 料 >

1. 令和5年度第2回寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定等外部委員会次第
2. 【資料1】寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略(第2期)の概要
3. 【資料2】寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略(第2期)令和6年度実施事業一覧
4. 【参 考】第2期寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略数値目標・KPI一覧
5. 【参 考】寒川町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定等外部委員会委員名簿